様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年６月１５日現在

機関番号：２５３０２
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2007～2010
課題番号：１９５２０１８０
研究課題名（和文）　南西諸島における文化叙事伝説の調査研究

研究課題名（英文）　A Study of Cultural Legends in the Ryukyu Islands

研究代表者
原田信之（HARADA NOBUYUKI）
新見公立大学・看護学部・教授
研究者番号：６０２９０５０８

研究成果の概要（和文）： 本研究の目標は、南西諸島各地に伝承されてきた文化叙事伝説を、南西諸島各地で直接聞き取り調査して記録するとともに総合的に比較研究し、民間伝承の世界における文化叙事伝説の特徴や意味を明らかにすることにある。そのために、平成 19 年度から平成 22 年度にかけて、大隅諸島・トカラ列島・奄美諸島・沖縄諸島・宮古諸島・八重山諸島それぞれに伝承されている文化叙事伝説をゆかりの地に行き直接聞き取り調査した。

研究成果の概要（英文）： In this research, I investigated the cultural legends in the Ryukyu Islands. Investigation areas are the Oosumi Islands, Tokara Islands, Amami Islands, Okinawa Islands, Miyako Islands, and Yaeyama Islands. I went to these islands and investigated cultural legends. This research was conducted from 2007 to 2010. The substance of the cultural legends of Ryukyu Islands was clarified by this research.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００７年度	**500,000**	**150,000**	**650,000**
２００８年度	**500,000**	**150,000**	**650,000**
２００９年度	**400,000**	**120,000**	**520,000**
２０１０年度	**400,000**	**120,000**	**520,000**
年度			
総　計	**1,800,000**	**540,000**	**2,340,000**

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学・日本文学
キーワード：南西諸島、文化叙事伝説、トカラ列島、奄美、沖縄、宮古、八重山

１．研究開始当初の背景

本研究と関連する研究領域としては、日本本土の伝説研究の領域と、『おもろさうし』などの文献を中心とした琉球文学研究の領域と、歴史学の立場からの研究の領域がある。文献を中心とした文学研究領域の研究成果と歴史学の立場からの研究成果を積極的に利用しつつ、文献研究とは異なる口承文学研究の立場からの考察を試みた。南西諸島の口承文学の研究は、昔話の採集と記録が中心で、伝説に関しては採集も研究もあまり行われてこなかった。研究代表者原田信之はこの研究課題に密接に関連した研究課題「南西諸島における英雄伝説の調査研究」において、奄美諸島・沖縄諸島・先島諸島それぞれに伝承されている主要な英雄伝説の調査を行った。続いて、研究課題「南西諸島における豪族伝説の調査研究」において、奄美諸島・沖縄諸島・宮古諸島・八重山諸島それぞれに伝承されている豪族伝説をゆかりの地に行き直接聞き取り調査し、研究した。これらの調査をへて研究が深まるにつれ、南西諸島における伝説研究は、大和・琉球両文化の接触点である大隅諸島・トカラ列島まで範囲を広げると

ともに、文化叙事伝説というさらに広い視点から総合的に考察を加えなければ全貌が把握できないことを痛感するようになった。したがって、本研究課題では、大和・琉球両文化の接触点である大隅諸島・トカラ列島の有人島すべてについて網羅的に調査研究するとともに、奄美諸島・沖縄諸島・先島諸島の島々のうちこれまで調査できなかった島々の調査を、文化叙事伝説にまで範囲を広げて調査研究することを目指した。

２．研究の目的

南西諸島には多くの島々があり、それぞれの島ごとに独自の文化がある。本研究では、南西諸島全域（九州島と台湾島とのあいだに弧状につらなる島々）を研究対象地域とし、大隅諸島・トカラ列島・奄美諸島・沖縄諸島・先島諸島各地で直接聞き取り調査して研究することとした（特に大隅諸島・トカラ列島は大和文化圏の南限とされ、大和・琉球両文化の接触点として注目される地域である）。本研究課題は、南西諸島各地に伝承されてきた文化叙事伝説を直接聞き取り調査して記録するとともに総合的に比較研究し、南西諸島における文化叙事伝説の特徴や意味を明らかにすることを目的とした。

３．研究の方法

本研究は平成１９年度から平成２２年度にかけて南西諸島全域での調査を目指したが、特に大和・琉球両文化の接触点である大隅諸島・トカラ列島の有人島全島（大隅諸島６島・トカラ列島７島）の網羅的な実地調査を行った。調査を行うことにより、大和・琉球両文化の接触点の島々で両文化がどのように変容して伝承されているかが明らかとなる。また、各地域の文化叙事伝説はそれぞれ独自の個性を有しているが、それらの伝説の意味についてもていねいに考察を加えてゆくことを目指した。平成１９年度は、大隅諸島と八重山諸島の文化叙事伝説に関する実地調査を行った。大隅諸島では、有人島６島中３島（種子島・屋久島・口永良部島）を調査対象地とした。平成２０年度は、大隅諸島と奄美諸島の文化叙事伝説に関する実地調査を行った。大隅諸島では、有人島６島中残りの３島（竹島・硫黄島・黒島）を調査対象地とした。平成２１年度は、トカラ列島と沖縄諸島の文化叙事伝説に関する実地調査を行った。トカラ列島では、有人島７島中４島（口之島・中之島・諏訪之瀬島・平島）を調査対象地とした。平成２２年度は、トカラ列島と宮古諸島の文化叙事伝説に関する実地調査を行った。トカラ列島では、有人島７島中残りの３島（悪石島・小宝島・宝島）を調査対象地とした。

４．研究成果

(1)平成１９年度の成果

平成１９年度は、大隅諸島・八重山諸島等で文化叙事伝説に関する実地調査・文献調査を行った。調査は、第１回平成１９年８月９日～８月２６日沖縄県八重山諸島の石垣島・鹿児島県大隅諸島の屋久島・口永良部島、第２回平成１９年９月２０日～９月２５日鹿児島県大隅諸島の種子島、第３回平成２０年３月１３日～３月１７日沖縄本島の宜野湾市の計３回行った(総計２９日間)。八重山諸島石垣島では、平成１９年度奄美沖縄民間文芸学会八重山大会に参加するとともに、フルスト原遺跡とオヤケアカハチ（石垣市大浜)、真乙姥御獄と真乙姥・古乙姥（石垣市新川)、大阿母御獄と多田屋遠那理（石垣市平得)、などの調査を実施した。大隅諸島の屋久島（鹿児島県上屋久町・屋久町）では、泊如竹と如竹踊り（屋久町安房)、トウセンブチ（唐船淵。上屋久町宮之浦)、トウセンゴウ（唐船河か。屋久町安房)、遣唐使船寄港伝説（屋久町尾之間ミヤカタ)、平家伝説（屋久町安房)、シドッチ上陸伝説（屋久町小島）などの調査を実施した。大隅諸島の口永良部島（鹿児島県上屋久町）では、オランダとの交易伝説（上屋久町本村)、イギリス船遭難伝説（上屋久町西之浜)、平家伝説（上屋久町本村・湯向)、西郷隆盛滞在伝説（上屋久町本村）などの調査を実施した。大隅諸島種子島（西之表市・中種子町・南種子町）では、鉄砲伝来伝説や若狭姫伝説などの調査を実施した。若狭姫は鍛冶工八坂金兵衛の娘でポルトガル人の妻となったとされるが、今回、八坂家の系図に若狭の名が記されているのを確認した。また、９世紀に創建されたという慈遠寺（西之表市、廃寺）の調査も実施した。種子島の島間地区（南種子町）では、秀吉の朝鮮出兵の際に敵軍の網を切って活躍したため「網切」姓をたまわったという網切吉右衛門、琉球から持ってきて栽培したという伝承があるサンダーからいも、琉球から習ったという伝承があるカジョウガネという踊りの調査を実施した。種子島の茎永地区（南種子町）では、宝満神社の由来についての調査を実施した。宝満池のすぐ横にある宝満神社には宝満様と称される女神（龍）が祀られている。沖縄本島の宜野湾市では平成１９年度奄美沖縄民間文芸学会公開講座に参加した。講座のテーマは「島言葉を考える」で、本研究課題「南西諸島における文化叙事伝説の調査研究」に密接に関係する「島の言語」についての内容であったため、極めて有意義であった。さらに、石垣市立図書館・上屋久町歴史民俗資料館・口永良部島歴史資料館・西之表市立図書館・種子島開発総合センター・中種子町立歴史民俗資料館・南種子町立図書館・沖縄県立図書館ほか、各地図書

館・資料館で関連資料を調査研究した。
(2)平成２０年度の成果
　平成２０年度は、大隅諸島・奄美諸島等で文化叙事伝説に関する実地調査・文献調査を行った。調査は、第１回平成２０年８月２９日～９月９日鹿児島県大隅諸島の硫黄島・奄美諸島の喜界島、第２回平成２１年１月２１日～１月２６日鹿児島県大隅諸島の竹島、第３回平成２１年３月１２日～３月１７日沖縄本島の宜野湾市・那覇市、第４回平成２１年３月１９日～３月２４日鹿児島県大隅諸島の黒島の計４回行った(総計３０日間)。大隅諸島の硫黄島（鹿児島県三島村）では、俊寛配流伝説（俊寛堂・足摺石・投筆岩・涙石・俊寛石・柱松)、平家伝説、遣唐使漂着伝説（徳躰神社)、アナンゴゼ伝説などの調査を実施した。大隅諸島の硫黄島には、八重山文化との交流を推測させる硫黄島八朔太鼓踊り（メンが登場）という民俗芸能があるが、祭事を見学するとともにそれに関連する伝説の調査も実施した。硫黄島の伝説のうち特に興味深いのが、遣唐使漂着伝説である。硫黄島の伝承によると、かつて遣唐使の息子が父親の遣唐使「軽（野）大臣」を中国から連れ戻したが、難破して漂着した硫黄島で軽大臣が亡くなったので、島に葬ったという。硫黄島にある徳躰神社（とくたいじんじゃ）は遣唐使の軽大臣を祀っているとされ、島では徳躰神社のことを「カルノト」「カルノトド」「カルノオトート」「カルノオトド」などと呼んでいる。遣唐使の軽大臣が中国で灯台鬼にされたという有名な説話は平康頼『宝物集』が初出とされるが、平康頼がどこで軽大臣の灯台鬼説話を知ったのかはよくわかっていない。硫黄島は鹿ヶ谷の変で平康頼・俊寛・藤原成経らが配流された「鬼界島」であるとされる（火山がある島という点、薩摩国にあるという点、周辺の島々の状況などから、断定してよいと思われる)。硫黄島が「鬼界島」であった場合、平康頼が硫黄島に流された時に遣唐使軽大臣を祀る塚と灯台鬼説話を知った可能性さえあり、極めて興味深い。硫黄島にある徳躰神社の徳躰とは灯台のことで、徳躰神社の「徳躰」には「灯台鬼を祀る」という意味が込められていると推定される。天保１４年（１８４３）に成立した薩摩藩の地誌『三国名勝図会』には、硫黄島社の説として、斉明天皇２年丙戌８月２５日、硫黄島に漂着して亡くなった軽大臣の骨を徳躰神社に納め、本国へは遺髪を持ち帰ったという伝承があると記されている。また、硫黄島の長濱家文書の中に「社例根元之覚」と題されたものがあり、それによると、斉明天皇の時代に、参議春衡卿が父君軽ノ右大臣の御陵守として山田蔵人という者を島に留め置き、この人が３年滞在して帰った後、セッカントウニンという人が派遣されてきて、縁日を立てて島中の安全を祈ったという。硫黄島に伝承されている遣唐使「軽大臣」にまつわる伝説は、灯台鬼説話をめぐる問題等を考えるうえでも重要なてがかりを与えてくれるものと考えられる。奄美諸島喜界島では、奄美沖縄民間文芸学会平成２０年度喜界島大会のシンポジウム「奄美・沖縄の英雄伝説」において、原田は「沖縄の英雄伝説」のテーマで基調報告を行った。また、喜界島では、勝連家伝説（喜界町早町)、涙石伝説（喜界町早町)、荒木王伝説（喜界町荒木)、村田新八滞在伝説（喜界町湾）などの調査を実施した。大隅諸島の竹島（鹿児島県三島村）では、遣唐使漂着伝説（島に漂着したとされる遣唐使の高田根麻呂を祀る大山神社がある)、平家伝説（東風泊というところから平家が上陸した時の伝説等を採集)、うつおぶね伝説（フクドサマという姫が打ち上げられたというフッドの砂浜の場所が確認できた)、などの調査を行うとともに、馬方踊りという民俗芸能の伝説調査を行った。馬方踊りは疱瘡の流行を防ぐため寛政６年（１７９４）から続く神事で、毎年１月２１・２２日にある。平成２０年１月には実施したということであったが、後継者不足のため平成２１年１月は実施されなかった。また、竹島には八重山文化との交流を推測させる竹島八朔太鼓踊り（タカメンが登場）という民俗芸能があるが、祭事に関連する調査を実施した。後継者不足のため数年前より実施されていないとのことであった。大隅諸島の黒島（鹿児島県三島村）では、平家伝説（片泊の「平家城」というところに平家が上陸して住み着いた)、英雄伝説（「イバドン」と呼ばれた豪傑の伝説等を採集)、うつおぶね伝説（ウツロンゴゼという姫はカザシタという所に打ち上げられた)、姨捨山伝説（片泊のガヤマという山に捨てた）などの調査を行うとともに、八朔踊りという民俗芸能に関する調査を実施した。八重山文化との交流を推測させる黒島八朔踊り（面踊りがある）は一時途絶えかけた後に復活したが、後継者不足の問題は深刻とのことであった。沖縄本島の宜野湾市では平成２０年度奄美沖縄民間文芸学会公開講座「奄美・沖縄の英雄伝説」に参加した。さらに、三島開発総合センター郷土資料展示室・喜界町歴史民俗資料室・鹿児島県立図書館・鹿児島市立図書館・沖縄県立図書館・那覇市立図書館ほか、各地図書館・資料館で関連資料を調査研究した。
(3)平成２１年度の成果
　平成２１年度は、鹿児島県のトカラ列島と沖縄県の久米島で文化叙事伝説に関する実地調査・文献調査を行った。調査は、第１回平成２１年８月１６日～８月２９日鹿児島県十島村の諏訪之瀬島・口之島・平島・中之島(トカラ列島)、第２回平成２１年９月１０

日～９月１５日沖縄県久米島町の久米島の計２回行った(総計２０日間)。トカラ列島の諏訪之瀬島（鹿児島県十島村）では、文化１０年（１８１３）の御岳噴火後無人となっていた諏訪之瀬島に、奄美大島から明治期に移住した藤井富伝らの移住伝説などを中心に調査を行った。文化的には奄美文化の影響が強く残存していることが確認された。口之島では、平家伝説（肥後・日高家が子孫とされる。タモトユリは平家落人がもたらした。清塚伝承。石礫伝承)、慶元伝説（殺害後祀られたという。墓は慶元様と称される）などを中心に調査を行った。平島では、平家伝説（日高家が子孫とされる。平家の穴や出瀬は見張場)、七島正月由来伝説（琉球征伐が起源とされる）などを中心に調査を行った。中之島では、平家伝説（平島より渡来したという説あり。日高家を核とする「二十八戸数」が子孫。小城・大城は平家の城跡)、与助岩伝説（海賊与助を祀る岩。かつて与助踊りという踊りがあった。ブト起源伝説がある）などを中心に調査を行った。沖縄諸島の久米島（久米島町）では、平成２１年度奄美沖縄民間文芸学会久米島大会および委員会に参加するとともに、ノロ伝説（宇根)、伊敷索城の按司伝説（兼城)、具志川城の按司伝説（具志川)、登那覇城の按司伝説（比嘉)、堂の比屋の伝説（宇江城)、羽衣伝説（山城)、鬼伝説（山城）などの調査を実施した。さらに、十島村歴史民俗資料館・鹿児島県立図書館・久米島自然文化センター・沖縄県立図書館ほか、各地図書館・資料館で関連資料を調査研究した。

(4)平成２２年度の成果

平成２２年度は、鹿児島県のトカラ列島と沖縄県の沖縄本島・宮古島で文化叙事伝説に関する実地調査・文献調査を行った。調査は、第１回平成２２年８月２日～８月１７日鹿児島県十島村の悪石島・小宝島・宝島(トカラ列島)、第２回平成２２年９月２１日～９月２７日沖縄県沖縄本島、第３回平成２２年１１月１９日～１１月２３日沖縄県宮古島市の宮古島の計３回行った(総計２８日間)。トカラ列島の悪石島（鹿児島県十島村）では、平家伝説（有川姓が子孫。根神山の上から見張った。根神山の北側に平家の城跡がある)、七島正月由来（島津の琉球征伐が起源)、悪石島盆行事（仮面訪問神「ボゼ」が出現)、寄船大明神由来（流木につかまって助かった人を祀る）などを中心に調査を行った。小宝島では、平家伝説（岩下姓が子孫。島の南にある赤立神の所から上陸。小宝島港近くにある大岩屋は平家の隠れ家)、海賊与助伝説（与助の人さらい伝承。与助襲来時に島民が隠れたという洞穴がある)、七島正月由来（島津の琉球征伐が起源)、権現堂由来（噴火をしずめる役割。ある僧が噴火をしずめたともいう)、疱瘡流行伝説（大半が死去して３軒のみ残った)、唐人浜由来（唐の船が難破した。死去した唐人の墓があった）などを中心に調査を行った。宝島では、平家伝説（平田姓が子孫。荒木崎に平家の砦跡という石垣あり)、イギリス坂由来（牛を盗んだイギリス人を射殺)、キャプテンキッド伝説（島のどこかにキッドが宝を埋めた)、七島正月由来（島津の琉球征伐が起源）などを中心に調査を行った。トカラ列島の島々は、文化的には大和文化圏に属するが、女性神役の役割や仮面神ボゼの存在など琉球文化の影響が強く残存しており、大和文化と琉球文化が混在した独特の文化を有していることが確認された。沖縄本島では、平成２２年度奄美沖縄民間文芸学会大会および委員会に参加するとともに、沖縄県立図書館で関連資料を調査研究した。宮古諸島の宮古島（沖縄県宮古島市）では、第５回宮古伝承文化研究センターシンポジウムおよび第１７回宮古島の神と森を考える会シンポジウムに参加するとともに、狩俣地区で鬼虎生誕伝説（狩俣地区は１６世紀に琉球王府により滅ぼされた鬼虎という人物の出身地とされる）や神歌ニイリ由来などの調査を行った。さらに、鹿児島県立図書館・沖縄県立図書館ほか、各地図書館・資料館で関連資料を調査研究した。

(5)研究の達成度と今後の展望

本研究課題の当初研究目的の達成度についての自己点検評価は、「当初の計画以上に進展した」である。その理由は、本項目に主要な成果を記した通り、当初の計画以上に調査研究が進展したためである。本研究では特に、大和・琉球両文化の接触点である大隅諸島・トカラ列島の有人島全島（大隅諸島６島・トカラ列島７島）の網羅的な実地調査を行うことを目指したわけであるが、平成１９年度および平成２０年度で大隅諸島の６島全部（種子島・屋久島・口永良部島・竹島・硫黄島・黒島)、平成２１年度および平成２２年度でトカラ列島の口之島・中之島・諏訪之瀬島・平島・悪石島・小宝島・宝島の７島の調査を完了した。調査の結果、大和・琉球両文化の接触点の島々で両文化がどのように変容して伝承されているかの一端が明らかになった。調査により、多くの貴重な文化叙事伝説を採集することができたが、調査に行く前の段階では知り得なかった貴重な伝説が伝承されていることを新たに発見することも多く、極めて興味深い研究成果が得られた。今後の研究の展望としては、本研究課題での計画が順調に進捗したことから、南西諸島における伝説研究をさらに深化させるために、事物起源伝説という視点からの調査研究を行うことを予定している。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計８件）
①原田信之、鹿児島県硫黄島の軽大臣灯台鬼伝承と徳躰神社、新見公立大学紀要、査読有、31、2010、219-232
②原田信之、南島の英雄伝説、奄美沖縄民間文芸学、査読有、9、2009、37-54
③原田信之、鹿児島県硫黄島の遣唐使漂着伝説と灯台鬼説話、新見公立短期大学紀要、 査読有、30、2009、181-195
④原田信之、沖縄・多良間島の御嶽と土原豊見親伝説、奄美沖縄民間文芸学、査読有、 8、2008、51-66
⑤原田信之、沖縄・与那国島の鬼虎伝説、新見公立短期大学紀要、査読有、29、2008、247-261

〔学会発表〕（計５件）
①原田信之、琉球国第一尚氏王統始祖伝説、【国際学会】韓国日本近代学会第 18 回国際学術大会(日本・韓国)、2008・10・25、立命館アジア太平洋大学(別府市)
②原田信之: 、沖縄の英雄伝説、平成 20 年度奄美沖縄民間文芸学会喜界島大会公開シンポジウム「奄美・沖縄の英雄伝説」基調報告、2008・9・7、喜界町コミュニティーセンター(喜界町)
③原田信之、沖縄・多良間島の御嶽と土原豊見親伝説、説話・伝承学会 2007 年度大会、2007・4・29、同志社大学(京都市)

〔図書〕（計３件）
①原田信之、人魚伝説、羽衣伝説、渡邊欣雄・岡野宣勝・佐藤壮広・塩月亮子・宮下克也編、上江洲均、 笠原政治、波照間永吉、原田信之、他 123 名、沖縄民俗辞典、吉川弘文館、2008、399・419
②原田信之、関敬吾と口承文芸、日本口承文芸学会編、シリーズことばの世界 第１巻 つたえる、石井正己・荻原真子・小澤俊夫ほか全 28 名、三弥井書店、2008、88-89

６．研究組織
(1)研究代表者
原田　信之（HARADA NOBUYUKI）
新見公立大学・看護学部・教授
研究者番号：６０２９０５０８

(2)研究分担者
なし　（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
なし　（　　）

研究者番号：